

女性管理職のための交流勉強会

第2回大阪サクヤヒメ・トーク交流会 in 芝川ビル

開催レポート

2018年5月15日、船場の近代建築「芝川ビル」にて「女性管理職のための交流勉強会 第2回大阪サクヤヒメ・トーク交流会」を開催。大阪サクヤヒメ表彰受賞者2名をお招きし、ご自身のキャリアに関するエピソードや、経験を通して得た「仕事をする上で心がけていること」などについてお話し頂きました。

ご登壇者

中谷 明子氏 ゴールデンダンス株式会社 代表取締役

星野 幸世氏 千島土地株式会社 地域創生・社会貢献事業部兼不動産事業部部长



中谷 明子氏
ゴールデンダンス
株式会社
代表取締役

「人の役に立つ、社会に貢献できるものづくりという理念はいつも変わらない。一身にその目標を目指してきた。」

起業する前から、夫婦で常々人のためになる仕事がしたいと話していました。起業したキッカケは、ある日主人が自宅に、骨伝導機器を持ち帰ってきたこと。当時は骨伝導機器がまだまだ普及しておらず、これを世に普及させれば耳が不自由な人の役に立てるかもしれないと起業を考えるようになりました。しかし、当時、主人はサラリーマンで、私は専業主婦。主人がすぐに会社を辞めることができなかったので、私の名前で会社をスタートさせました。主人がこちらに専念できるようになって、社長を代わるつもりでしたが、「これからは、女性も社会に出て活躍すべきだ」と主人から勧められ、今に至ります。

女性管理職・今後管理職を目指す方へのエールとして、伝えたいことが2点あります。1つは、女性にしか見えない視点を大事にしたいということ。男性だけではすり抜けてしまう課題が、女性の視点によって見えることがあります。企業や社会において、女性の発言力が増している今、ぜひ女性の視点を活用してください。

もう1つは、周りの力を引き出す女性であること。私一人では何も出来ず、私自身に力はないと思っています。仕事をする上で気をつけているのは、いかに周りの力を引き出すことのできる女性であるか。そんな女性の見えない力が、今後の社会の中で必要だと感じます。



星野 幸世氏

千島土地株式会社
地域創生・社会貢献
事業部兼
不動産事業部部长

「以前よりも女性が働きやすくなったが、男性との軋轢や格差は未だ残っている。そこを改善することが自分の役割。」

私は営業職として、自社が保有する近代建築の運営を担当しています。今回の会場である芝川ビルを10年ほど前から担当しており、当時は雑居ビルのような状態であったこの近代建築を、一般の方にも来ていただけるビルに変えようと、テナントの入れ替えを行いました。魅力的な店舗を誘致することでイメージを変え、今では船場のシンボリックな建築物として認知していただいています。

芝川ビルのほかにも、船場の町には沢山の近代建築・見るべき建物が沢山あり、これだけの建築物が見られる地域は日本でもほとんどありません。しかし、ビル1つではただの点。点から線に、線から面にと、船場のビル全体が盛り上がる様々なイベントを企画、運営することで地域の魅力向上につながったと思います。

社内で女性の部長は私が初めてで、とても不安でした。サクヤヒメ表彰を受賞したことで、今まで関わりのなかった活躍されている女性達とつながりが生まれ、考え方や立ち振る舞い方を勉強させていただいています。社内では、「結婚・出産＝退職」というかつての状況は徐々に変わりつつありますが、未だ待遇面で男女間の格差が残っています。女性がより働きやすくなるように働きかけることも、私の役割だと考えています。

対話・質疑応答終了後、グループに分かれて、参加者との情報交換会を行いました。自社の今後の展望や男性上司・部下とのコミュニケーションのとり方、働く上での心構えなど、質疑応答では伝えきれなかったことを話題に、活発な交流が行われました。



芝川ビル



交流会のようす